

# アクセスポイントとしての出版年

遠山 潤

## Date of publication for Access Points

Jun TOHYAMA

**【要約】** 本稿の目的は、アクセスポイントとしての出版年について現状を調査し課題を考察することである。調査の対象と方法は、NDL-OPACとCiNiiを使って出版年による絞り込み検索を類型化し、その型ごとに出版年からの絞り込み検索の可否を確かめ、そのデータを基に各データベースにおける出版年による絞り込み検索の実態を分析した。

調査の結果、NDL-OPACとCiNiiの間で「資料の種類」「検索の可否」「表示の順序」が違っているという事実がもつ問題、ヘルプの自己説明性に関する問題、検索・排列と記録の単位の問題、アクセスポイントとしての出版年そのものの理解に関する問題が存在することを指摘した。

**【キーワード】** NDL-OPAC CiNii 出版年 アクセスポイント ヘルプ

### 1. 序論

#### 1.1 問題提起

高梨(2009)は、「明治から大正にかけて、京都でどんな雑誌が出ていたか、知りたいな、と思ったらコンピュータではどうします?」と問いかけながら、「通常の図書館OPACでは、出版地検索欄そのものがない上、出版年だけの検索もまた受け付けない。WebcatPlusは図書の出版年検索はOKだが、雑誌は不可だ。国立国会図書館は出版年だけの検索はだめだが、出版地検索はできるので、掛け合わせればよい、ということになるのだが…」と自答している。そして、「メジャーでない雑誌ともなれば、大方はこちらがそのタイトルを知らない。知っているモノを探すにはコンピュータは便利なんだが。雑誌の冊子体目録なんてもうどこも作りはしない。」と述懐している。雑誌の冊子体目録は分類順や誌名の音順が普通だが明治や大正期に刊行されたものがあればそれが使えるし、それ以後のものしかなくても端から端までしらみ潰しに出版地を捜し回れば何か出てくるはずだ、と言っているような気がする。

現在のNDL-OPACは、出版年だけの検索が可である。詳細検索の入力画面で全資料を対象とした西暦1000年から1900年(明治3)年までの検索をかけると141,291件も出てくる。冊子体やカード目録と比べて、OPACに格納されたMARCレコードは資料の種類や時代を越えて一元的に管理されるようになってきた。また、その記録様式、記録へのアクセス性、記録の表示方法、記録の表示順序に関し高い設計上の自由度を持っている。すなわち、出版年は、まず書誌記述の中の構成要素である書誌的事項として記録され、次に検索のアクセスポイントとして利用され、そして一覧表示の表示順序を決める排列基準として使用されている。

このように、出版年から検索し、出版年によって排列できるという機能はかつてのカード目録時代には存在せず、OPACによって新しく付け加えられたものである。しかし、現在OPACに格納されている出版年のデータは、出版年を書誌的記録の中の資料を同定識別するための記

述要素として規定したこれまでの目録規則や現行の日本目録規則 1987 年版を使って作成されたものである。だから、当然それらの目録規則はアクセスポイントとしての出版年を想定していない。だが、日本目録規則 1987 年版は出版年を書誌記述の要素として、かなり重視している。それは、[出版地不明] や [出版者不明] という記録方法は許容されているのに、奥付等に出版年が表示されていないときは、頒布年、著作権表示年、製作（印刷）年および序文、あとがき等に根拠を求めた上で、それでも不明のときは本文等を使って確かさの度合いに応じて [1975] [1972?] [1970 頃] [197-] [19--] のように最大 100 年間の幅を持たせてまで推定させるよう指示している（日本目録規則 1987 年版改訂三版 2.4.3.2D）ことから読み取れる。[出版年不明] という書誌的記録は規則上存在しないのである。

MARC に記録されデータベースとしてコンピュータに格納された書誌データは論理的にはすべて取り出すことが可能である。西村（2013）によれば、現在日本の公共図書館のほぼ全部の OPAC で、出版年はアクセスポイントとして用意されている。だが、検索キーとしての出版年の歴史はまだ浅い。出版年による検索はどこまで可能なのか。あるいは、出版年による絞り込み検索はどのように機能しているのか。今回の調査は、こうした問題意識をもって進められる。

## 1. 2 目的と方法

本稿の目的は、インターネット上に公開された目録データベースの現状を探るため書誌的記録の 1 つである出版年を検索キーの視点から調査し、アクセスポイントとしての出版年の課題に考察を加えることである。調査対象は、インターネット上に公開された NDL-OPAC と CiNii の 2 目録データベースで、調査方法は、出版年による絞り込み検索を類型化し、その型ごとに年鑑類を中心とした検索をかけ、出版年からの絞り込み検索の可否を確かめる。そして、その結果データを基に各データベースにおける出版年による絞り込み検索の実態をヘルプの説明事項と照合しつつ分析する。調査期間は 2013 年 2 月 1 日から 2 月 14 日の 2 週間である。

## 2. 調査の対象

調査対象となる NDL-OPAC は、国立国会図書館が所蔵する資料を検索し遠隔複写や資料閲覧（館内から）・閲覧予約申込を行うことが出来るシステムで、その中に全資料を検索できる詳細検索（図 1）と、雑誌を記事単位で検索できる雑誌記事検索（図 2）がある。また、CiNii は全国の大学図書館等が所蔵する本（図書・雑誌）の情報を検索できる CiNiiBooks（図 3）と、学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できる CiNiiArticles（図 4）に分かれている。

これら 4 つの目録データベースについて、出版年からの絞り込み検索に必要な情報を、ヘルプの解説を使いながら以下に解説する。

### 2. 1 NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）詳細検索

NDL-OPAC は、キーワードのみによる簡易検索がデフォルト（規定値）の画面となっているが、ここでは詳細検索を使って検索する。

詳細検索の検索画面のデフォルト（規定値）画面は図 1 のとおりである。

図 1 を見ると、資料種別は「全選択」「全解除」の他に「図書／雑誌／新聞／電子資料／和古

図 1

詳細検索 ?

以下の条件で絞り込みます

キーワード

And  タイトル

And  著者

And  出版者

And  請求記号

And  選択してください

And  選択してください

And  選択してください

著者名・件名典拠検索  各種番号・コード  NDLC  NDC

広範囲に検索(ノイズ多め)(日中韓)  フレーズ検索(欧文) ?

※雑誌記事、規格レポート類も検索します。日本占領関係資料は含まれません。

**資料種別**  全選択  全解除 ?

<input checked="" type="checkbox"/> 図書	<input checked="" type="checkbox"/> 雑誌	<input checked="" type="checkbox"/> 新聞
<input checked="" type="checkbox"/> 電子資料	<input checked="" type="checkbox"/> 和古書・漢籍	<input checked="" type="checkbox"/> 博士論文
<input checked="" type="checkbox"/> 地図	<input checked="" type="checkbox"/> 音楽映像	<input checked="" type="checkbox"/> 蘆原コレクション
<input checked="" type="checkbox"/> 記事	<input checked="" type="checkbox"/> 規格レポート類	

**所蔵場所**  ?

**出版年**  ~

\*雑誌・新聞以外

- 1995年のみ [1995] ~ [ ]
- 1995年以降 [1995] ~ [9999]
- 1995年以前 [1000] ~ [1995]

**本文の言語**  ?

※他の言語は左の項目からコードで検索できます。

検索
クリア

書・漢籍／博士論文／地図／音楽映像／蘆原コレクション／記事／規格レポート類」の11種がチェックボックスにより任意に選択出来るようになっていて、デフォルト（規定値）は全選択である。この資料種別の中の「記事」は雑誌記事索引と同じである。ヘルプに

検索対象：日本占領関係資料以外の全て

とあるので、「詳細検索」では雑誌記事索引を含めた国立国会図書館所蔵のほぼ全資料が検索できる。しかし、ここでは雑誌記事と区別するために「記事」を除外して図書（マイクロ資料を含む）と雑誌（マイクロ資料を含む）を検索対象とした。

ヘルプの中で「出版年」は次のように解説されている。

資料が出版された年を元に絞り込みを行います。

片方の年だけ入れるとその年だけで検索します。

1995年のみ [1995] ~ [ ]

●年以降, ●年以前としたい場合は次のように入力します。

1995年以降 ⇒ [1995] ~ [9999]

1995年以前 ⇒ [1000] ~ [1995]

※雑誌・新聞では創刊年などに当たり、各号が発行された年ではありません。空欄で検索してください。

※年の範囲が広いと検索に時間がかかります。指定する場合はできるだけ年の幅を絞ってください。

図1にも出版年は「\*雑誌・新聞以外」と断つてあるように、雑誌・新聞に関しては出版年を「空欄」で検索するよう指示しているが、ここではCiNiiと比較対照するため、また図書と雑誌の境界領域で年代により取り扱いが分かれている年鑑をサンプルとして利用するため、雑誌も出版年による絞り込み検索の対象とした。

検索結果一覧の画面上部には

検索結果一覧 ← 検索結果の絞り込み

という表示があり、アンダーライン部をクリックすると絞り込み検索の条件が表示される。「資料種別で」「出版年で」「所蔵場所で」「その他の項目で」と分かれていて、詳細検索と同様の絞り込みが可能となっている。

一覧表示の表示順序のデフォルト（規定値）は

並び順選択

となっており、第1 排列基準が出版年の降順、第2 排列基準がタイトルの昇順である。並び順選択は次の9つがプルダウンメニューによって択一的に選択できる。この9つの並べ替えの中に出版年（降順・昇順）を含むものが6つある。

出版年（新しい順） → タイトル（昇順）

出版年（古い順） → タイトル（昇順）

タイトル（昇順） → 出版年（新しい順）

タイトル（昇順） → 出版年（古い順）

資料種別

資料種別 → タイトル（昇順）

資料種別 → 出版年（新しい順）

資料種別 → 出版年（古い順）

請求記号

## 2. 2 NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）雑誌記事検索

NDL-OPAC 雑誌記事検索の検索画面のデフォルト（規定値）は図2のとおりである。

前節でも述べたが、雑誌記事検索は図1の詳細検索でも資料種別の中の「記事」を選択して

図2

**雑誌記事検索** ?

国立国会図書館が作成した雑誌記事索引を検索します。

以下の条件で絞り込みます

論題名	<input type="text"/>
著者	<input type="text"/>
雑誌名	<input type="text"/>
出版者・编者	<input type="text"/>
件名	<input type="text"/>
機関コード	<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 機関コード
雑誌分類	<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 雑誌分類
記事分類・種別	<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 記事分類・種別
ISSN	<input type="text"/>
レポート番号	<input type="text"/>
請求記号	<input type="text"/>
記事登録ID	<input type="text"/>

所蔵場所	<input type="text" value="全館"/>	?
出版年	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	
	○1995年のみ [1995]~[ ]	
	○1995年以降 [1995]~[9999]	
	○1995年以前 [1000]~[1995]	
巻号	<input type="text"/>	
本文の言語	<input type="text" value="全て"/>	

あれば同じ結果が得られる。また、図1と図2の出版年の箇所を比べてみると同一の設定になっていることが分かる。

ヘルプの中で「記事掲載年」は次のように解説されている。

雑誌に掲載された年を元に絞り込みを行います。  
 片方の年だけ入れるとその年だけで検索します。  
 1995年のみ [1995] ~ [ ]  
 ●年以降, ●年以前としたい場合は次のように入力します。  
 1995~ ⇒ [1995] ~ [9999]  
 ~1995 ⇒ [1000] ~ [1995]  
 ※年の範囲が広いと検索に時間がかかります。指定する場合はできるだけ年の幅を絞ってください。

検索結果一覧の画面上部には

検索結果一覧 雑誌記事 ← 検索結果の絞り込み

という表示があり、アンダーライン部をクリックすると絞り込み検索の条件が表示され、「資料種別で」「出版年で」「所蔵場所で」「その他の項目で」と分かれて、絞り込みが可能である。この点は、詳細検索と同じである。

一覧表示の表示順序のデフォルト(規定値)は

並び順選択 出版年(新しい順) → タイトル(昇順)

となっており、第1排列基準が出版年の降順、第2排列基準がタイトルの昇順である点も詳細検索と同じである。並び順選択は次の5つがプルダウンメニューによって択一的に選択できる。この5つの並べ替えの中で出版年(降順・昇順)を含むものが4つある。

出版年(新しい順) → タイトル(昇順)

出版年(古い順) → タイトル(昇順)

タイトル(昇順) → 出版年(新しい順)

タイトル(昇順) → 出版年(古い順)

請求記号

### 2.3 CiNii Books (大学図書館の本をさがす)

2013年2月2日現在、Webcatのトップページを見ると「お知らせ」に

Webcatは平成25年3月8日(金)を以てサービスを終了いたします。

後継サービスとして、検索機能をより拡張したCiNii Booksを提供しています。

と記されていて、Webcatが進化した形でCiNii Booksが大学図書館総合目録データベース(図書版)として提供されていることが分かる。

CiNii Booksの検索画面のデフォルト(規定値)は図3のとおりである。

図3

図3を見ると、検索の対象は、「すべての資料」「図書」「雑誌」の中からラジオボタンによって択一的に指定される。資料種別は、「すべての資料種別／図書・雑誌／地図資料／文字資料(点字)／楽譜(印刷)／文字資料(書写資料)／地図(書写資料)／楽譜(書写資料)／静止画像(投影)／マイクロ形態／静止画像(非投影)／映画／録音資料(音楽)／録音資料(非音楽)／ビデオレコード／機械可読データファイル／3次元工芸品, 自然の事物/キット」の18種がプルダウンメニューによって択一的に選択出来るようになっていて、デフォルト(規定値)は「すべての資料種別」である。

図書と雑誌の区別については、ヘルプに

- 「すべての資料」……全ての図書・雑誌を対象に検索
- 「図書」……CiNii Booksにある図書を対象に検索
- 「雑誌」……CiNii Booksにある雑誌(逐次刊行物)を対象に検索

「雑誌」とは、終期を予定せず継続的、定期的に刊行されるものを指します。それ以外は、資料の形態(冊子体, CD・DVD等)に関わらず全て「図書」として扱っています。図書と雑誌(逐次刊行物)の違いについての詳細は「目録情報の基準」をごらんください。

と書かれていて、ラジオボタンで「図書」を指定した場合、非逐次刊行物であればデータベースに格納されたあらゆる形態・媒体の資料が含まれることを示している。

ヘルプの中で「出版年」は次のように解説される。

指 定 方 法	注 意 事 項
西暦で入力します。 どちらか片方だけの指定も可能です。	複数年にまたがる場合は発行された最初の年を対象となります。 出版年不明のものは検索対象から除外されます。

検索結果一覧画面と詳細表示画面の双方共、画面上部に図3の検索画面が付いているため、絞り込み検索は1回目と同画面・同条件でおこなうことができる。

一覧表示の表示順序のデフォルト（規定値）は出版年（降順）であるが、次の7つの表示順序がプルダウンメニューによって択一的に選択できる。この中で出版年による並べ替えが2つある。

- 出版年：新しい順
- 出版年：古い順
- 所蔵館：多い順
- 所蔵館：少ない順
- タイトル：五十音順
- タイトル：五十音逆順
- 関連度

## 2.4 CiNii Articles（日本の論文をさがす）

CiNii Articles の検索画面のデフォルト（規定値）は図4のとおりである。

図4

図4を見ると、検索の対象は、「すべて」「CiNiiに本文あり」「CiNiiに本文あり、または連携サービスへのリンクあり」の中からラジオボタンによって択一的に指定される。これは、本文入手の可否・方法による区別であり、ヘルプによると「すべて」は「全ての論文を対象に検索」している。資料種別はとくに指定されておらず、プルダウンメニューによる選択はない。

出版年の範囲指定に関しては、ヘルプに

- ・出版年の範囲を指定して検索を行う場合、範囲の開始年と終了年の欄に、それぞれ数字で入力してください。

と記されている。

CiNii Books と同様、論文検索結果一覧画面と論文詳細表示画面の双方共、画面上部に図4の検索画面が付いているため、絞り込み検索は1回目と同画面・同条件でおこなうことができる。

一覧表示の表示順序のデフォルト（規定値）は出版年（降順）であるが、次の7つの表示順序がプルダウンメニューによって択一的に選択できる。この中で出版年による並べ替えが2つある。

- 出版年：新しい順
- 出版年：古い順
- 論文名：五十音順
- 論文名：五十音逆順
- 刊行物名：五十音順
- 刊行物名：五十音逆順
- 被引用件数：多い順

### 3. 調査の方法

調査方法は、NDL-OPAC 詳細検索・NDL-OPAC 雑誌記事検索・CiNii Books・CiNii Articles の出版年による絞り込み検索の実態を探るために、検索行為を

①入力データ

②書誌データ

③入力データと書誌データの大小関係

の3要素を類型化して組み合わせた上で、それぞれの組み合わせごとに該当する書誌データが表示できるかどうか検索の可否を確かめた。サンプルには、図書と雑誌の境界領域を効率よく探るため、遠山(2003)が調査した年鑑43点を使ってタイトルだけを入力し、得られた書誌データに出版年による絞り込み検索をかけるという方法で実施した。さらに必要に応じて、白書、歴史資料集・全集・講座・大系・叢書を確認目的で使用した。雑誌記事に関しては、『情報の科学と技術』など図書館関係の記事を随時確認用に使用した。検索をかけた年鑑43点のタイトルは次のとおりである。

書誌年鑑／出版年鑑／朝日年鑑／国文学年鑑／百科年鑑／宗教年鑑／文芸年鑑／社会保障年鑑／日本労働年鑑／国際連合世界統計年鑑／ユネスコ文化統計年鑑／日本統計年鑑／日本都市年鑑／中東年鑑／中国年鑑／時事年鑑／読売年鑑／世界年鑑／アフリカ年鑑／会社年鑑／本の年鑑／ブリタニカ国際年鑑／図書館年鑑／日本新聞年鑑／キリスト教年鑑／新制日本国会年鑑／日本労働年鑑／日本教育年鑑／原子力年鑑／日本工業年鑑／自動車年鑑ハンドブック／電気年鑑／鉄鋼年鑑／繊維・ファッション年鑑／日本農業年鑑／水産年鑑／関税年報／日本民間放送年鑑／日本美術年鑑／音楽年鑑／演劇年鑑／映画年鑑／国語年鑑

出版年による検索画面は、NDL-OPAC, CiNii とともに2つの入力欄が次のように左（範囲開始年）右（範囲終了年）に並んで表示される。その前後の文字・記号の表現は違っても基本的にこの形である。

--	--



出版年による検索は、この左欄と右欄のどちらか一方かまたは両方に西暦年の数字4桁を入力することによっておこなわれるから、その入力パターンは次のように3とおりに分けられる。

パターン A   左欄に出版年（範囲開始を設定）

パターン B   右欄に出版年（範囲終了を設定）

パターン C   左右の欄に出版年（範囲の開始と終了を設定）

検索の対象となるのが書誌情報中の出版事項中の出版年だけであるとした場合（タイトル中の年次などに反応して出てくる場合もあるが割愛した）、資料の種別を問わず出版年として記述されるデータは次の3タイプである。

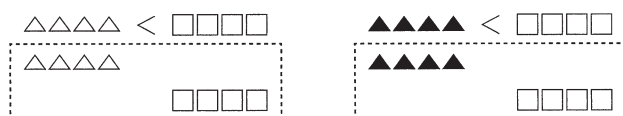
- タイプ1  刊行年
- タイプ2  刊行開始年
- タイプ3  刊行開始年-刊行終了年

したがって、入力パターンとデータタイプの組み合わせは、A1 A2 A3 B1 B2 B3 C1 C2 C3の9とおとりとなる。これらは、入力データの位置（左欄か右欄か）や、入力データと書誌データの数の対比（1:1または1:2または2:1または2:2）によって幾通りかに分かれる。その全てをデータの数値の大小関係とさらに組み合わせると、次のように大きく4つのグループに分けて考えることができる。

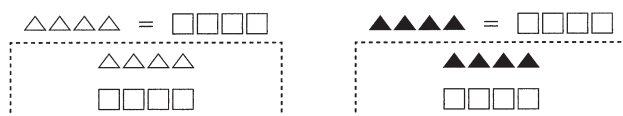
### 3.1 第1グループ

A1 A2 B1 B2の場合、入力データ：書誌データ=1:1となり、数値の大小関係は次の3とおりがあがる（タイプ2  はタイプ1  と同一視している）。

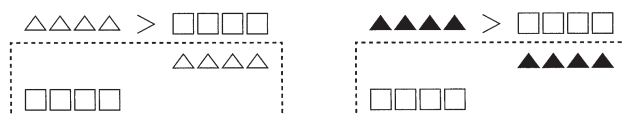
(1)入力データが書誌データより小さい。



(2)入力データが書誌データと等しい。



(3)入力データが書誌データより大きい。

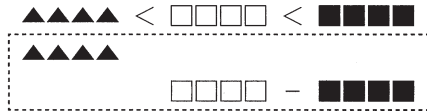
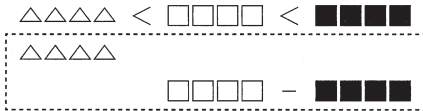


A1 A2 B1 B2を数値の大小関係と関連させると4×3=12となり、合計12とおりの絞り込み検索パターンがある。

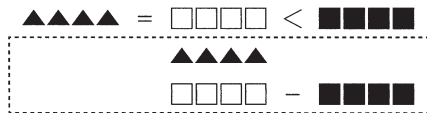
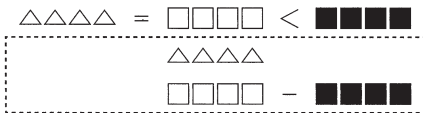
### 3. 2 第2グループ

A3 B3の場合、入力データ：書誌データ = 1：2となり、数値の大小関係は次の5とおりがあ  
る。

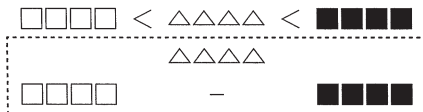
(1)入力データが左の書誌データより小さい。



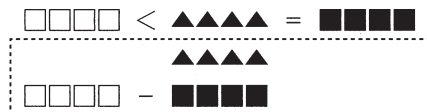
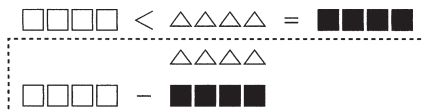
(2)入力データが左の書誌データと等しい。



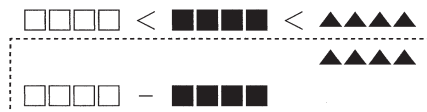
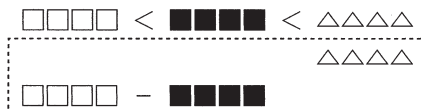
(3)入力データが左右の書誌データの間にある。



(4)入力データが右の書誌データと等しい。



(5)入力データが右の書誌データより大きい。

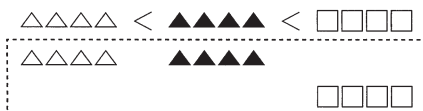


A3 B3 を数値の大小関係と関連させると 2×5=10 となり、合計 10 とおりの絞り込み検索パ  
ターンがある。

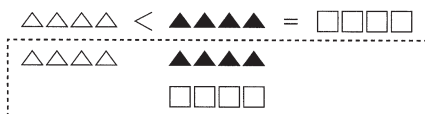
### 3. 3 第3グループ

C1 C2の場合、入力データ：書誌データ = 2：1となり、数値の大小関係は次の5とおりがあ  
る（タイプ2 □□□□- は タイプ1 □□□□ と同一視している）。

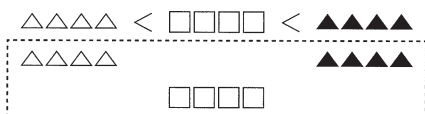
(1)左右の入力データが書誌データより小さい。



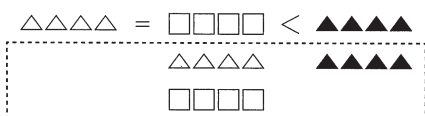
(2)右の入力データが書誌データと等しい.



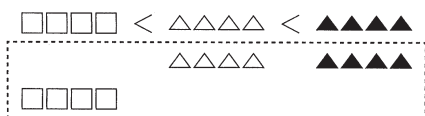
(3)左右の入力データの間に入力データがある.



(4)左の入力データが書誌データと等しい.



(5)左右の入力データが書誌データより大きい.

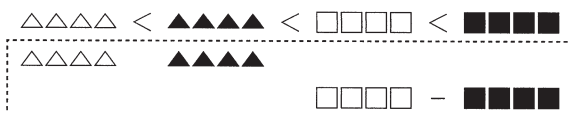


C1 C2 を数値の大小関係と関連させると 2×5=10 となり, 合計 10 とおりの絞り込み検索パターンがある.

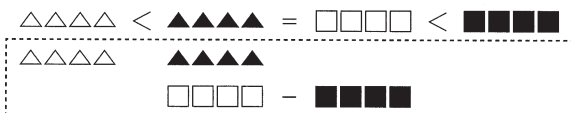
### 3. 4 第4グループ

C3 の場合, 入力データ:書誌データ = 2:2 となり, 数値の大小関係は次の 13 とおりがある.

(1)右の入力データが左の書誌データより小さい.

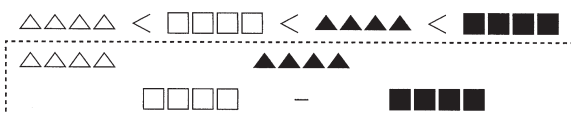


(2)右の入力データが左の書誌データと等しい.



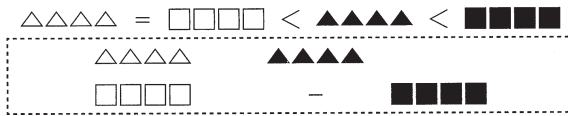
(3)右の入力データが左右の書誌データの間にある.

左の入力データが左の書誌データより小さい.

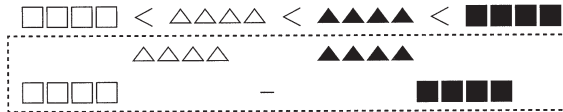


(4)右の入力データが左右の書誌データの間にある.

左の入力データが左の書誌データと等しい.

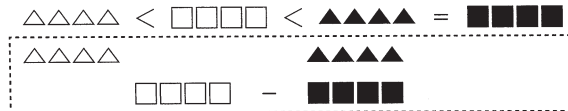


(5)左右の入力データが左右の書誌データの間にある.

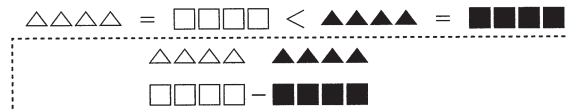


(6)右の入力データが右の書誌データと等しい.

左の入力データが左の書誌データより小さい.

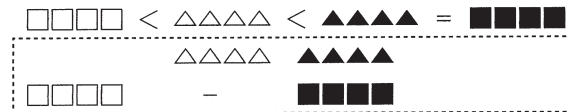


(7)左右の入力データが左右の書誌データと等しい.



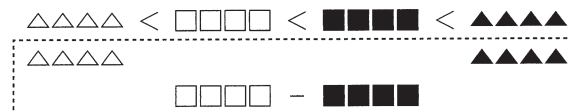
(8)右の入力データが右の書誌データと等しい.

左の入力データが左右の書誌データの間にある.



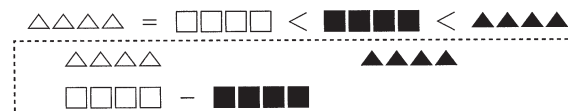
(9)右の入力データが右の書誌データより大きい.

左の入力データが左の書誌データより小さい.



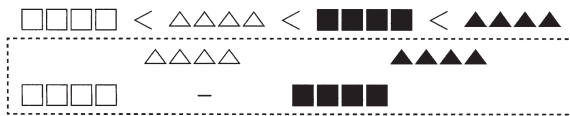
(10)右の入力データが右の書誌データより大きい.

左の入力データが左の書誌データと等しい.



(1)右の入力データが右の書誌データより大きい.

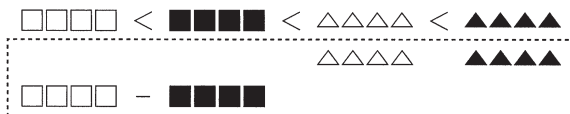
左の入力データが左右の書誌データの間にある.



(2)左の入力データが右の書誌データと等しい.



(3)左の入力データが右の書誌データより大きい.



C3を数値の大小関係と関連させると、13とおりの絞り込み検索パターンがある.

以上、出版年による絞り込み検索を類型化する作業により、第1グループから第4グループまでを合計した(12+10+10+13=)計45の組み合わせが得られる.

## 4. 調査の結果

前章で確かめた45の組み合わせを使い、NDL-OPACとCiNiiの出版年による絞り込み検索の実態を確かめた。以下、検索をかけて調査した結果を、「資料の種別」「検索の可否」「表示の順序」の3点からまとめてみる。

### 4.1 資料の種別

NDL-OPAC 詳細検索で検索をかけると、資料種別のデフォルト(規定値)が全資料となっているので、資料種別の範囲をチェックボックスによって解除・選択しなければ、検索対象資料の範囲が図書、雑誌、マイクロ、電子、記事…と広範囲になり、検索結果得られた書誌データの出版年は

- タイプ1 □□□□ 刊行年
- タイプ2 □□□□- 刊行開始年
- タイプ3 □□□□-■■■■■ 刊行開始年-刊行終了年

の3タイプが一般的に混在する。チェックボックスを「図書」だけにした場合には、国立国会図書館の書誌的記録の単位は1冊ごとの物理単位を原則とするので

- タイプ1 □□□□ 刊行年

のタイプがもっとも一般的である。

NDL-OPAC 詳細検索で「記事」だけチェックするかNDL-OPAC 雑誌記事検索を使う場合は、

タイプ1 □□□□ 刊行年

のタイプだけが存在することを前提として良いだろう。

これに対し、CiNii Books で検索をかけると、「すべての資料」(=図書+雑誌)がデフォルト(規定値)となっていて、検索結果得られた書誌データの出版年は

タイプ1 □□□□ 刊行年

タイプ2 □□□□- 刊行開始年

タイプ3 □□□□-■■■■■ 刊行開始年-刊行終了年

の3タイプが一般的に混在する。ラジオボタンを「図書」にした場合でも、図書の1件の記録が書誌単位であることから同様である。NDL-OPAC で図書だけを検索する場合に比べると、書誌データの出版年はより複雑になっていると言える。

CiNii Articles は NDL-OPAC 雑誌記事検索を含む論文データベースであることから、検索結果は

タイプ1 □□□□ 刊行年

のタイプだけが存在することを前提として良いだろう。

このように、資料の種別については、検索画面にあるラジオボタンやチェックボックスによる操作によって検索対象の範囲が変化し、次節で述べるように検索の可否に影響を与える。この他にもいくつかの問題が存在する。

まず、NDL-OPAC のヘルプによると、資料種別の「図書」とは

図書、非図書(他の資料群に含まれない楽譜、マイクロ資料、静止画資料、点字資料等)、  
科研費報告書、国際機関資料など

をすべて含むものとされていて、図書の概念がかなり広い。とくにマイクロ資料については形態および媒体が変化するときには冊子体をまとめて1つの資料単位としているものが多く、出版年のタイプは

タイプ3 □□□□-■■■■■ 刊行開始年-刊行終了年

が一般的に存在する。全集・叢書中の月報に関しても同様である。

次に、「図書」と「雑誌」の区別の問題がある。今回のサンプルに使用した年鑑に関して言えば、これはもともと取り扱い上両者の境界領域に属する資料である。NDL-OPAC のヘルプに

\*年鑑などで、1986年前後を境に《雑誌》として扱われている資料もあります。

とあるように、こうした資料は時代によって取り扱いの違いが見られ、変化した痕跡がそのままの状態データベース化されている。

#### 4. 2 検索の可否(類型)

入力パターンと書誌データタイプの組合せを使った出版年による絞り込み検索の類型は45であった。この45の検索行為類型に対する調査結果をまとめたものが表1である。表1では、該当箇所に入力した年鑑が入力した時該当する書誌データが検索された(画面に表示された)ケースを○、検索されなかった(画面に表示されなかった)ケースを×として表している。また、N=NDL-OPAC、C=CiNii の意味である。

表 1

(注) \* は NDL-OPAC 雑誌のみ○で、NDL-OPAC 図書は×である。

第1グループ		N	C	第3グループ		N	C
A1	△△△△			C1	△△△△ ▲▲▲▲		
(1)	□□□□	×	○	(1)	△△△△ □□□□	×	×
A1	△△△△			C1	△△△△ ▲▲▲▲		
(2)	□□□□	○	○	(2)	□□□□	○	○
A1	△△△△			C1	△△△△ ▲▲▲▲		
(3)	□□□□	×	×	(3)	□□□□	○	○
A2	△△△△			C1	△△△△ ▲▲▲▲		
(1)	□□□□-	×	○	(4)	□□□□	○	○
A2	△△△△			C1	△△△△ ▲▲▲▲		
(2)	□□□□-	○	○	(5)	□□□□	×	×
A2	△△△△			C2	△△△△ ▲▲▲▲		
(3)	□□□□-	×	×	(1)	□□□□-	×	×
B1	▲▲▲▲			C2	△△△△ ▲▲▲▲		
(1)	□□□□	×	×	(2)	□□□□-	○	○
B1	▲▲▲▲			C2	△△△△ ▲▲▲▲		
(2)	□□□□	○	○	(3)	□□□□-	○	○
B1	▲▲▲▲			C2	△△△△ ▲▲▲▲		
(3)	□□□□	×	○	(4)	□□□□-	○	○
B2	▲▲▲▲			C2	△△△△ ▲▲▲▲		
(1)	□□□□-	×	×	(5)	□□□□-	×	×
B2	▲▲▲▲			第4グループ		N	C
(2)	□□□□-	○	○	C3	△△△△ ▲▲▲▲		
B2	▲▲▲▲			(1)	□□□□- ■■■■	×	×
(3)	□□□□-	×	○	C3	△△△△ ▲▲▲▲	*	
第2グループ		N	C	(2)	□□□□- ■■■■	○	○
A3	△△△△			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(1)	□□□□- ■■■■	×	○	(3)	□□□□ - ■■■■	○	○
A3	△△△△	*		C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(2)	□□□□- ■■■■	○	○	(4)	□□□□ - ■■■■	○	○
A3	△△△△			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(3)	□□□□ - ■■■■	×	×	(5)	□□□□ - ■■■■	×	×
A3	△△△△			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(4)	□□□□- ■■■■	○	×	(6)	□□□□- ■■■■	○	○
A3	△△△△			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(5)	□□□□- ■■■■	×	×	(7)	□□□□- ■■■■	○	○
B3	▲▲▲▲			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(1)	□□□□- ■■■■	×	×	(8)	□□□□ - ■■■■	○	×
B3	▲▲▲▲	*		C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(2)	□□□□- ■■■■	○	○	(9)	□□□□- ■■■■	○	○
B3	▲▲▲▲			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(3)	□□□□ - ■■■■	×	○	(10)	□□□□- ■■■■	○	○
B3	▲▲▲▲			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(4)	□□□□- ■■■■	○	○	(11)	□□□□ - ■■■■	○	×
B3	▲▲▲▲			C3	△△△△ ▲▲▲▲		
(5)	□□□□- ■■■■	×	○	(12)	□□□□- ■■■■	○	×
				C3	△△△△ ▲▲▲▲		
				(13)	□□□□- ■■■■	×	×

今回の調査においては、NDL-OPAC 詳細検索と NDL-OPAC 雑誌記事検索、CiNii Books と CiNii Articles は同様に扱っている。そこで、表 1 でもとくに必要がある時を除き NDL-OPAC と CiNii の 2 種類に分けて (NDL-OPAC 中の詳細検索と雑誌記事検索、CiNii 中の Books と Articles をそれぞれ区別せず) 処理している。

書誌データとして表示される出版年は、西暦年 (と月日) を数字で単純に並べただけのものも多いが、例外的にさまざまな情報が付帯しているものもある。それらが出版年による絞り込

み検索と一覧表示の時にどのように働いているのかをまとめると、次のとおりである。

書誌データの表示	検索上・排列上の意味
2012.3 2012.Spr. 2012.Aut. 2012夏	2012
[1980]	1980
[2002] - [2008]	2002-2008
昭和45年	1970
c2001	2001
19-- 19?? -2000	無記入?

表1を見ると、第1グループ（入力データ：書誌データ=1:1）の入力データと書誌データとの関係で検索可（○印）となるケースは、次のような共通性を持っている。すなわち、表中で=または≤または≥のどれかが記入されている。検索不可（×印）となるケースは、同表中で空欄となっている（○×の持つ共通性の意味については、以下同様）。

NDL-OPAC（例えば、等号は △△△△ = □□□□ の意味を表す）

	□□□□ 刊行年	□□□□- 刊行開始年	□□□□-■■■■■ 刊行開始年-刊行終了年
△△△△（範囲開始設定）	=	=	
▲▲▲▲（範囲終了設定）	=	=	
△△△△ ▲▲▲▲（範囲開始終了設定）			

CiNii（例えば、不等号は △△△△ ≤ □□□□ の意味を表す）

	□□□□ 刊行年	□□□□- 刊行開始年	□□□□-■■■■■ 刊行開始年-刊行終了年
△△△△（範囲開始設定）	≤	≤	
▲▲▲▲（範囲終了設定）	≥	≥	
△△△△ ▲▲▲▲（範囲開始終了設定）			

第2グループ（入力データ：書誌データ=1:2）の入力データと書誌データとの関係で検索可（○）となるケースは、次のような共通性を持っている。

NDL-OPAC（例えば、等号は △△△△ = ■■■■■ の意味を表す）

	□□□□ 刊行年	□□□□- 刊行開始年	□□□□-■■■■■ 刊行開始年-刊行終了年
△△△△（範囲開始設定）			* = =
▲▲▲▲（範囲終了設定）			* = =
△△△△ ▲▲▲▲（範囲開始終了設定）			

（注）\*はNDL-OPAC雑誌のみ、NDL-OPAC図書は不可。



CiNii (例えば, 不等号は,  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \square\square\square\square$  の意味を表す)

	$\square\square\square\square$ 刊行年	$\square\square\square\square-$ 刊行開始年	$\square\square\square\square-$ 刊行開始年-刊行終了年	$\blacksquare\blacksquare\blacksquare\blacksquare$ 刊行開始年-刊行終了年
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ (範囲開始設定)			$\leq$	
$\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲終了設定)			$\geq$	
$\triangle\triangle\triangle\triangle \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲開始終了設定)				

第3グループ (入力データ: 書誌データ = 2:1) の入力データと書誌データとの関係で検索可 (○) となるケースは, 次のような共通性を持っている.

NDL-OPAC (例えば, 不等号は  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \square\square\square\square$  と  $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle \geq \square\square\square\square$  で  $\triangle\triangle\triangle\triangle \triangle \leq \square\square\square\square \leq \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$  の意味を表す)

	$\square\square\square\square$ 刊行年	$\square\square\square\square-$ 刊行開始年	$\square\square\square\square-$ 刊行開始年-刊行終了年	$\blacksquare\blacksquare\blacksquare\blacksquare$ 刊行開始年-刊行終了年
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ (範囲開始設定)				
$\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲開始終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$	$\leq$ $\geq$	$\leq$ $\geq$		

CiNii (例えば, 不等号は  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \square\square\square\square$  と  $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle \geq \square\square\square\square$  で  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \square\square\square\square \leq \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$  の意味を表す)

	$\square\square\square\square$ 刊行年	$\square\square\square\square-$ 刊行開始年	$\square\square\square\square-$ 刊行開始年-刊行終了年	$\blacksquare\blacksquare\blacksquare\blacksquare$ 刊行開始年-刊行終了年
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ (範囲開始設定)				
$\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲開始終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$	$\leq$ $\geq$	$\leq$ $\geq$		

第4グループ (入力データ: 書誌データ = 2:2) の入力データと書誌データとの関係で検索可 (○) となるケースは, 次のような共通性を持っている.

NDL-OPAC (例えば, 不等号は  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \blacksquare\blacksquare\blacksquare\blacksquare$  と  $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle \geq \blacksquare\blacksquare\blacksquare\blacksquare$  で  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \blacksquare\blacksquare\blacksquare\blacksquare \leq \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$  の意味を表す)

	□□□□ 刊行年	□□□□- 刊行開始年	□□□□-■ 刊行開始年-刊行終了年	
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ (範囲開始設定)				
$\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲開始終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$			* $\leq$ * $\geq$	$\leq$ $\geq$

(注) \*は NDL-OPAC 雑誌のみ, NDL-OPAC 図書は不可.

CiNii (例えば, 不等号は  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \square\square\square\square$  と  $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle \geq \square\square\square\square$  で  $\triangle\triangle\triangle\triangle \leq \square\square\square\square \leq \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$  の意味を表す)

	□□□□ 刊行年	□□□□- 刊行開始年	□□□□-■ 刊行開始年-刊行終了年	
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ (範囲開始設定)				
$\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle \blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ (範囲開始終了設定)				
$\triangle\triangle\triangle\triangle$ $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$			$\leq$ $\geq$	

### 4. 3 検索の可否 (要約)

これらの結果を, 次の NDL-OPAC・CiNii Books・CiNii Articles の各入力画面を参照にしな  
がらまとめてみる.

~  (NDL-OPAC)

年 ~  (CiNii Books)

年から  年まで (CiNii Articles)

(第1グループと第2グループ)

出版年を1つ入力したケースである. この場合, NDL-OPAC は検索対象が1つであれば刊行年 (□□□□) または刊行開始年 (□□□□-) との一致によって検索でき, 検索対象が2つであれば, 図書は刊行終了年 (■  
■  
■  
■) との一致によって検索でき, 雑誌は刊行開始年 (□□□□-) と刊行終了年 (■  
■  
■  
■) のどちらか一方との一致によって検索できる (図書の中で全集の月報に関しては雑誌と同様). このことは, 範囲開始年 ( $\triangle\triangle\triangle\triangle$ ) を設定したときと範囲終了年 ( $\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle\blacktriangle$ ) を設定したときで変化がない. 以上の事実から, 第1グループは刊行終了年 (■  
■  
■  
■) を対象としたときの第2グループと同じであると言える.

同様のケースで, CiNii は検索対象が1つであれば刊行年 (□□□□) または刊行開始年 (□□□□-) と一致するか, 刊行年 (□□□□) または刊行開始年 (□□□□-) より大きい

によって検索でき、検索対象が2つであれば刊行開始年(□□□□-)と一致する、範囲開始年(△△△△)が刊行開始年(□□□□-)より小さい、範囲終了年(▲▲▲▲)が刊行開始年(□□□□-)より大きい、のいずれかの条件を満たせば検索できる。以上の事実から、第1グループは刊行開始年(□□□□-)を対象としたときの第2グループと同じであると言うことができる。

このように、第2グループが第1グループと実質的に同じ機能を持つ点でNDL-OPACとCiNiiは共通している。が、第2グループにおいて、NDL-OPACの図書は刊行期間(□□□□-■●■■■)の中の刊行終了年(■●■■■)との一致のみに関係し、NDL-OPACの雑誌は刊行期間(□□□□-■●■■■)の中の刊行終了年(■●■■■)との一致以外に刊行開始年(□□□□-)との一致にも関係している。一方、CiNiiは刊行期間(□□□□-■●■■■)の中の刊行開始年(□□□□-)との大小関係にのみ関係している。この点に違いがある。

検索画面に見られる「～」「年～」「年」「年から」「年まで」に関しては、これらの記号や文字が持っている「小なり」(≤)「大なり」(≥)という意味が生きているのはCiNiiの方であり、NDL-OPACでは「同じ」(=)の意味でしか働いていない。この事実は、NDL-OPACのヘルプに

片方の年だけ入れるとその年だけで検索します。  
と書いてあることと一致する。ただし、事例として

1995年のみ [1995] ～ [ ]

と、範囲開始年(△△△△)を挙げてはいても範囲終了年(▲▲▲▲)のみ入力する例は無い。これは現実的な説明の仕方ではあるが、第1グループ第2グループの検索例をすべて説明するものではない。そして、NDL-OPACの「～」はCiNiiの「年～」「年から」と似ているため、ヘルプの説明にも関わらず、範囲開始年(△△△△)だけに入力した場合にはその年以降の意味を持ち、範囲終了年(▲▲▲▲)だけに入力した場合にはその年以前の意味を持つというふうに解釈される恐れがある。

NDL-OPACのヘルプは、範囲開始年(△△△△)かまたは範囲終了年(▲▲▲▲)の片方だけに入力した場合「小なり」(≤)「大なり」(≥)が働かず「同じ」(=)の意味しか持たないため、

●年以降、●年以前としたい場合は次のように入力します。

1995年以降 ⇒ [1995] ～ [9999]

1995年以前 ⇒ [1000] ～ [1995]

というふうに、範囲指定によって「小なり」(≤)「大なり」(≥)の検索を行うよう定めている。しかし、この範囲指定の事例は

※年の範囲が広いと検索に時間がかかります。指定する場合はできるだけ年の幅を絞ってください。

というヘルプの注記がある割にはかなり広い。そして、適当な幅で絞り込む場合を想定した具体的な事例がない。

出版年の範囲指定を具体的な事例付きで説明しているのはCiNii Articlesヘルプであるが、CiNii Booksのヘルプは出版年の指定方法として

どちらか片方だけの指定も可能です。

と書かれている。これは、範囲開始年(△△△△)だけに入力した場合にはその年以降の意味を持ち、範囲終了年(▲▲▲▲)だけに入力した場合にはその年以前の意味を持つことを説明

したものと思われる。しかし、この一文でそのことを理解させるのは難しい。

(第3グループと第4グループ)

出版年を2つ入力したケースである。この場合、NDL-OPACは検索対象が1つであれば設定された範囲開始年と終了年の間(一致を含む)に刊行年(□□□□)または刊行開始年(□□□□-)があれば検索でき、検索対象が2つであれば、図書は設定された範囲開始年(△△△△)と範囲終了年(▲▲▲▲)の間(一致を含む)に刊行終了年(■ ■ ■ ■)があれば検索でき、雑誌は設定された範囲開始年(△△△△)と範囲終了年(▲▲▲▲)の間(一致を含む)に刊行開始年(□□□□)または刊行終了年(■ ■ ■ ■)があれば検索できる(図書の中で全集の月報に関しては雑誌と同様)。以上の事実から、第3グループは刊行終了年(■ ■ ■ ■)を対象としたときの第4グループと同じであると言うことができる。

同様のケースで、CiNiiは検索対象が1つであれば設定された範囲開始年と終了年の間(一致を含む)に刊行年(□□□□)または刊行開始年(□□□□-)があれば検索でき、検索対象が2つであれば設定された範囲開始年と終了年の間(一致を含む)に刊行開始年(□□□□)があれば検索できる。以上の事実から、第3グループは刊行開始年(□□□□-)を対象としたときの第4グループと同じであると言うことができる。

このように、第4グループが第3グループと実質的に同じ機能を持つ点でNDL-OPACとCiNiiは共通している。だが、第4グループにおいて範囲開始年(△△△△)と範囲終了年(▲▲▲▲)の間(一致を含む)を指定する対象となる書誌データがNDL-OPAC図書では刊行終了年(■ ■ ■ ■)であり、NDL-OPAC雑誌では刊行開始年(□□□□-)かまたは刊行終了年(■ ■ ■ ■)であるのに対し、CiNiiでは刊行開始年(□□□□-)だけであり、この点は異なる。このため、第2グループと第4グループではNDL-OPACとCiNiiの検索結果が違っている。CiNii Booksヘルプの注意事項には

複数年にまたがる場合は発行された最初の年が対象となります。

と書かれていて、この問題が指摘されているが、NDL-OPACには、図書の場合

複数年にまたがる場合は発行された最後の年が対象となります。

といった一文は存在しない。

刊行開始年(□□□□-)と刊行終了年(■ ■ ■ ■)で構成されるデータを出版年の範囲開始年(△△△△)と範囲終了年(▲▲▲▲)で範囲指定して検索した場合

△△△△ ▲▲▲▲  
□□□□ - ■ ■ ■ ■  
が×で  
△△△△ ▲▲▲▲  
□□□□-■ ■ ■ ■

が○であるという点では、NDL-OPACもCiNiiも同じである。このことは、出版年の範囲指定とは、検索対象となる資料の刊行開始年(□□□□-)または刊行終了年(■ ■ ■ ■)、もしくはその両方を挟む(一致を含む)時に検索されるものではあっても、その資料が刊行中の期間内を範囲設定により指定しても検索できないということを意味している。

以上から、4つのグループ全体を通して、NDL-OPACとCiNiiの検索結果が完全に同一なのは第3グループだけということになる。

#### 4. 4 表示の順序

検索の結果の表示順序については、NDL-OPAC のデフォルト（初期値）は  
出版年（新しい順）→タイトル（昇順）

CiNii は

出版年：新しい順

であり、どちらも第1 排列基準は出版年の降順である。

また、一覧表示を並び替えるときの基準として、NDL-OPAC 詳細検索では9 種の表示順の中に出版年（降順・昇順）を含むものが6 種、NDL-OPAC 雑誌記事検索では5 種の表示順の中に出版年（降順・昇順）を含むものが4 種ある。また、CiNii Books・CiNii Articles では7 種の表示順序の中で出版年（降順・昇順）がそれぞれ2 種ある。これらの事実から、一覧表示の排列基準として出版年は比較的重要な位置を占めていることがわかる。

出版年による降順・昇順の排列の対象は書誌データの3 タイプの中で

タイプ1 □□□□ 刊行年

タイプ2 □□□□- 刊行開始年

は、NDL-OPAC と CiNii でまったく同様に扱われる（-は無視される）。しかし

タイプ3 □□□□-■■■■■ 刊行開始年-刊行終了年

に関してはNDL-OPAC と CiNii の間に違いが見られる。第2グループと第4グループがこのタイプのデータを対象としているが、その検索結果の一覧表示を見ると、NDL-OPAC の図書は刊行終了年（■■■■■）、雑誌は刊行開始年（□□□□-）により排列され、CiNii Books と CiNii Articles は共に刊行開始年（□□□□-）により排列される。

以上、NDL-OPAC と CiNii は「資料の種別」「検索の可否」「表示の順序」の3 項目においていくつかの違いがあることが分かった。なお、今回、今回調査の対象としなかったが、国立国会図書館サーチについては所蔵館による取り扱いの違いが条件として加わるため、事態はNDL-OPAC よりもより複雑になると考えられる。

## 5. 結論

冒頭（1. 1 問題提起）で述べたように、現在のMARC レコードは、多様化した資料群の間にある資料としての種類の違いや、明治以前から現代に至るまでの長い歴史の中の区別を無化し、つまり時空間を超えて、あらゆる資料を情報資源として一元的に管理する環境の中に置かれている。コンピュータというものの特性を考えると、この傾向は今後さらに進行していかだろうと思われる。出版年からの検索を論ずる際には、まず最初にこの事実を頭の中にインプットしておく必要がある。この点を踏まえながら、今回の調査結果から得られたデータを基に、これからの問題を以下にまとめてみる。

第1に、NDL-OPAC と CiNii の間で「資料の種別」「検索の可否」「表示の順序」が食い違っているという事実自体がもつ問題である。「資料の種別」とは検索対象となる資料をどのように類別するのかという課題である。「検索の可否」とはシステムにおける検索の論理をどのように設計するのかという課題である。「表示の順序」とは一覧表示の排列基準を刊行開始年と刊行終了年のどちらに求めるのかという課題である。これらの諸課題がNDL-OPAC と CiNii という日本語資料の2 大目録データベースでかなりな部分異なった処理をされている。この2 重基準は利用する側からすれば少なくとも必要なものとは言えない。

第2に、ヘルプの問題である。これまで見てきたところにより、NDL-OPACとCiNiiのヘルプは自己自身の説明用としても充分であるとまでは言えず、また両者の差異がたやすく理解されるようにも書かれていない。ヘルプはどこまで詳しく記すのが適切であるのか、ヘルプを見てから検索する人がどの程度いるのか、検索支援の役割はもともとヘルプの記述内容だけが負うべき課題なのか、等々についてはまた別の議論を要するが、より精度の高い緻密な検索を期待するのであれば、ヘルプの自己説明能力は今後一つの課題だろう。

第3に、記録の単位の問題である。雑誌記事の場合は、NDL-OPAC 雑誌記事検索・CiNii Articles とともに記事1点単位で刊行年が個別に対応するが、図書の場合、原則としてNDL-OPACは物理単位、CiNii Booksは書誌単位である。出版年の範囲指定による検索や一覧表示そして並べ替えのことを考慮すれば、1冊ごとに記録する物理単位で記録されるNDL-OPACの方が書誌単位で記録されるCiNii Booksより優位性がある。1980年代に誕生し機械可読専用で作られた目録の方が明治以来の長いカード体の歴史を持つ目録よりもコンピュータ検索に適しているとは必ずしも言えないのである。しかし、NDL-OPAC 図書の中にも一部年鑑・白書類やマイクロ資料等では「刊行開始年-刊行終了年」といった刊行期間を持つものが存在する。この場合、「検索の可否」「表示の順序」においてこれまで述べてきたような問題が発生する。

第4に、出版年そのものの理解に関する問題である。書誌情報に求められる同定識別の機能の中には、空間的と時間的の2種類がある。その中では空間的な区切りに関係する情報が大半を占め、時間的な区切りに関係する情報は版と出版年のみである。ISBNは時間的な区切りに関係しつつ空間的な区切りに関係して、時空間を同時に同定する図書識別用の固有番号であり、書誌情報の時間軸と空間軸を切り結ぶ交点と言える。書誌的要素を使った空間的な絞り込みをX軸とすれば、出版年による絞り込み検索はほとんど唯一のY軸である。だとすれば、書誌記述におけると同じくらいアクセスポイントとしても重要なデータ要素だと言えないだろうか。

### 参考文献

- 高梨章（2009）出版年、出版地からの検索（窓） 図書館雑誌 Vol.103 No.7 428p  
西村直樹（2013）公立図書館におけるOPACの機能に関する現状調査 久留米大学文学部情報社会学科平成24年度卒業論文  
遠山潤（2003）書誌単位と出版年 図書館学 No.83 pp.13-23